十夕
日刊
磐城時報

福島縣石城郡平町紺屋町十四
編輯兼發行人 岡田弘成
印刷人
印刷所 福島縣石城郡平町紺屋町十四 加納活版所
發行所 福島縣石城郡平町紺屋町十四 磐城時報社
一部金武錢 一ヶ月金參拾錢
廣告料一行十四字詰金五拾錢
▲日刊（日曜、祭日）休刊

共濟病院の幹部會 二派に分れて紛糾
野崎氏が退席したので 結局木村氏一任となる

平町磐城共濟病院主管賀澤忠治氏の石山院長追出し策は既報の如く俄然一般會員の非難の的となつたが、之を知つた磐城共濟會副會長木村清治氏は九日急遽歸郡したので午後六時から共濟病院内に幹部會を開き

副會長木村清治、井上茂作、理事野崎滿藏、萩原義雄、岡田千藏、端山正男

の各氏が出席井上、野崎、萩原の三氏は賀澤氏の過去を顧み到底病院經營の手腕がない事を認めてゐるので病院更正を計る意味に於て總會を開き協議する事を主張したが、木村、岡田、端山の三氏は總會を開く事は問題を紛糾せしむる恐れがあり結局賀澤氏は追ひ出される結果となるから總會開催は中止したいと賀澤氏擁護説をのべ互に激論を戰はしたが、野崎氏が退席したため强硬派は少數となり結局石山博士の顔を立てゝ問題を解決する事といふ條件で木村氏に一任する事となり散會した。

鑛産税の移讓 愈々近く實施
常磐關係町村に 約三萬圓の收入

常磐炭田關係各町村が長い間期待してゐた鑛産税半額地方委讓は閣議で決定を見たので今度こそはいよ／＼本物になる可能性が出たので取らぬ狸の皮算用でこそあれ喜び切つてゐるが、六年度平税務署における調定額左の通りで三万圓に達してゐる。

▲磐炭四七、九八二圓▲入山二三、八六二圓▲古河九、一七一圓▲小田八、一六六圓▲大日本一一、四八八圓▲福島二、三二八圓▲五十嵐一、八五六圓▲日枝一、六一〇圓▲植武五七二圓▲山本五〇〇圓▲關西四八五圓▲鳳城四五五圓▲不動澤二一七圓▲古川磯一八四圓▲朝鮮一三八圓▲川瀬七一圓▲永山一六圓▲東日本一三圓▲品川六圓▲王城三圓である。

石炭運賃値下 同盟會組織

石城郡内の三大炭礦を除いた十五炭礦の石炭運賃値下げ協議會は九日午後二時から石郡内郷村内郷館で開き協議の結果石炭鐵道運賃値下同盟會を組織することに決した委員長に小田吉治、副委員長戸部衛氏を擧げ運動資金としてこれ等各炭礦では一トンにつき八厘を積み立る事に決し、光ほ茨城側から上田長一氏ほか九名來會聯合協議の結果十一日午前五時廿分平驛發列車で各炭礦から六十名上京鐵道その他關係各省および各政黨本部等を歴訪し三日間の豫定で陳情運動することになつた。

野菜泥棒が跋扈し 消防組で出動警戒

夏井村附近では最近毎夜の如く野菜泥棒が跋扈し被害頻々と起るので消防組では去る八日幹部會を開き協議の結果組員二名宛毎夜出動し八月末日まで村内を巡視する事に決定十日から實施した。

平町共濟會で 貧困者救濟

平町共濟會では例年通り舊盆を前に貧困者を救濟すべく役場とともに戸數、生活狀態等を調査中であるが大体五十戸二百六十餘名の見込であり、これにつき今十日午前九時から役場會議室に種々打合せをなす。

▲桃品評會

平窪村果樹組合では十一日平町田町藤田女學校で桃の品評即賣會を催ほす。

▲慰問金への禮狀

奉天二九聯隊佐々木喜市、同第七中隊鈴木勝正、同野崎清同小野友惠

小名濱町で 知事に陳情

小名濱町では八日急施町會を開き知事が交迭したので新知事に對し小名濱築港工事を從來通り變更せずに進めて貰ふやう陳情する事となり九日鈴木町長は委員立花雄七、吉田龜之助、熊谷寅次郎三氏と共に出福した。

四倉海岸から
平第一校臨海學校通信

▲野球試合 小林正久

今日は朝からどんよりとくもつてゐる。「朝飯だ、朝飯だ」といふ聲をきいて皆は食堂へあつまた、そしてにこ／＼と朝の空氣を呼吸しながら一しよにたべた、朝飯皆ゆくわいにあそび勉强した。朝の海は潮が早く冷い。水にはいりたくもない。陸上でボール遊びだ。今日は郡山からの團体で陸は人の海、藝者の手踊などもある、午後の海もまだ荒い砂濱でエンドアベースボールで夢中になつて歸る。四ツ倉と野球試合がある、たがひに禮をすまして試合は開始された。僕等が先攻―一番ばつたが矢代君ゆう／＼とぼつくすにはひつた、ふれーぼーるしんぱんの聲はたからにひゞいた、わあッ應援の人々はさかんにはやし拍手、どん／＼すゝんで三回戰、四ツ倉はもうれつにせめまもりした。應援はます／＼いきだつてきた僕等は一点、二点、三点と点を加へあがり五回戰の時にはどちらもまけてはならぬとがんばつた、しかしつひに天運は僕等がうけた。四ツ倉がうつ、ッ！ダンバッター、ヘビー最後の一球矢代君はゆう／＼となげた球はばつたがうつ、みつとにはいるのがほとんど同時であつた。バッターアウトといふ聲はきこへなかつたわ、あッばんざい。いふ聲は天にもとゞろきといふほど大きかつた。その時は皆うれしなきにないた。心して僕等はいきやう／＼と歸つてきたのであつた。

▲玉川で井戸浚ひ

玉川村では傳染病豫防のため八日全村の飲料水井戸浚ひをした。

就寢中の客の頭に 小便をひつかける

東京市小石川區水道町石川伊勢松（三〇）は九日夜平町南町小松屋旅館に投宿し泥醉して午前一時頃便所と間違へて水戸市上市大工町水野安治（四五）が泊つてゐる室に入り就寢中の水野の頭から小便をかけたので水野は驚いて飛び起き喧嘩が始まつたが平署猪狩刑事出張して取鎮めた。

常磐炭礦未曾有の 恐怖時代現出
西澤炭礦も遂に休山

炭價の崩落については夏枯れ時における需用半減から極度の經營難に陥つた常磐地方における中小炭礦は今夏に入つて既に筒井炭礦外四五の諸炭礦が休山を見るに至つたので炭礦界は全く未曾有の恐怖時代を現出してゐる、殊に小炭礦は殆ど頻死の狀態にあるだけ休山は相ついで發表されるものと見られてゐた矢先赤井村の西澤炭礦では從業員三十餘名に對し七日限り休山する旨を發表したが、これ等休山中の炭礦に稼いでゐた四百餘名の勞働者とその家族一千二百餘名は目下失職から必然的に來た生活苦にあえいでゐるので重大な社會問題化されんとしてゐる。

少年の 商業見習

平職業紹介所では郡下各聯絡小學校と連繫し夏休みを利用し實務見習ひ希望の兒童に對し斡旋中であり現在平町各商店に見習中のものは

吳服店二、菓子舗一、下駄商一、指物商一

計五名で、この暑熱に元氣克く眞面目に職業戰線の第一歩を九日から實習中である、この外鐵工場見學希望のもの九名あり見習ひ期間は大体一週間で期間終了後同紹介所で實習期間中の兒童の感想及び雇主から見た見習ひ兒童の勤務狀態等をそれ／＼纒め指導上の參考資料にすると

『救けに來てくれ』
行衛不明の 少女からの便り

石城郡内郷村磐城炭礦工夫長屋居住菅野策長女高岡小學校六年生はなよ（十三）は去月廿日同炭礦運動會見物に出たまゝ行衛不明となり手配捜査中去る五日神奈川縣平塚局の消印ある葉書で誰で「助けに來て下さい」と親もとに便りがあつたので誘拐されたものとして捜査方手配中。

舊盆に 臨時列車

舊暦の盂蘭盆はいよいよ迫つて來た、町から村からの若衆が名物のジャンガラ念佛に踊り狂ふ盆は來る十五日舊暦七月十四日から三日間平町は非常の人出に賑ふので平驛では踊り見物の客のため例年通り臨時列車を運轉することになつた。

平町物價

白米一等一キロ一六、〇 二等同一五、五 三等同一五、〇 白麥同六五 平麥同一〇、五 味噌一貫匁五〇〇 醤油一升三五〇 清酒同一〇〇、〇 木炭榾丸一貫一六、〇 榾割同一三〇 雜木同一五〇 砂糖白百匁一四〇 赤同一二〇 豚肉上同三〇〇 並肉同一五〇 牛肉上同四〇〇 並同二五〇

暑中伺申上候

堀江工業株式會社

江口忠一

音樂講習會

簡易作曲法

和聲學初步對位法
伴奏、附ケ方
歌謠曲ノ作リ方

◇ピアノ科

▲期日　十五日ヨリ二十一日マデ

▲會場　平陽女學校

▲時間　作曲科午前八時—十一時
ピアノ科午後一時ヨリ四時迄

▲講師　武藏野音樂學校卒業

中野篤親

會費　一科目三圓　二科目五圓

申込所　柴田書店、菊屋樂器店

◆……初步の方も歡迎致します。

醬油と味噌

山崎合名會社

福島縣平町

電話（營業部專用一〇番　一般用長二七番）

振替東京一九七五五番

明治生命　磐城代理店　山崎與三郎

平看護婦會

會長　清野キヨ

平町字南町【電話三〇七番】

◈看護婦派出の需めに應じます

例年の通りに

氷水及び色々の新口な飲料水を初ましたから例年の通り御引立御用命下さい。

調味は百パーセントデス

山盛の！

特製

アイスクリーム	十錢
あつきアイス	五錢
ミルクセーキ	十五錢
ソーダ水（色々）	十錢
氷スイカ	十錢
氷金とん	十錢
氷パインアップル	十五錢

外澤山メヅラシキ飲物御座い升

◆……出前迅速……◆

平町三丁目

鳳凰食堂

電話六三三番

例年の通り

氷水始めました

多少に拘らず御用命御引立の程願上ます。

特製

アイスクリーム（山盛）	金十錢
あづきアイス（同）	金五錢
ミルクセーキ（同）	金十五錢
ソーダ水	金十錢

其他氷水各種

出前迅速

平町二丁目

藤寅

電話……一四一番

融通低利　蓄積安心

三年無盡

大藏大臣免許

湯本信用無盡會社

電話四七番

胃腸　内科　專門　十二指虫腸病

梅毒　淋病　婦人病　專門　皮膚病

松村胃性腸病科醫院

平町南町（電話一〇七）

共存共榮　誠意堅實

大藏大臣免許

磐城無盡

平町電話三七八番

簡易金融趣味貯蓄

故高岡唯一郎

故伊藤芳吉

故山崎忠治

右新盆に相當り候處時節柄提打其他供物等一切辭退致度候に付此段謹告候也

八月九日

山崎吉平

伊藤淺之助

高岡文夫

肅啓　酷暑の候御尊堂益々御清福の段奉賀候偖而先般慈德院葬送の際は種々御配慮を忝ふし奉深謝候

本年は舊宇蘭盆に相當致し候處時節柄と生前の遺志を尊重し甚だ勝手釜敷候得共提灯其他の御供物等一切固く御辭退申上候間不惡御諒承の程願上候

先は乍失禮以寸楮御通知迄如斯に御座候

昭和七年八月

平町

山田盤麿

敬具

謹啓　時下酷暑の折柄愈々御清祥奉大賀候亡父瑞法院新盆の處時節柄提灯其他御惠賜の儀甚だ乍勝手御辭退申上候

昭和七年舊七月

平町二丁目

遠藤市松

敬具

内科　小兒科

花柳病科

（入院應需）

藤沼醫院

平町紺屋町

電話平長五〇七番